



広報 No.45  
2024年1月  
新春号



「第九」 田中めぐみ 薬谷佳苗 延原武春 鹿岡晃紀 林康宏 各先生

2023年12月10日 コミュニティプラザ平野



## 新春のご挨拶

団長 館 和秀

新年おめでとうございます。皆様にとって、良いスタートとなることを心よりお祈り申し上げます。

今年辰年で、私は6回目の年男として新たな一年を迎えました。先ごろ終えた第23回クリスマスコンサートは大変盛況でした。関係各位に感謝申し上げます。演奏した2曲は重厚なもので、その深みある音楽が会場を魅了し、団員として誇りに思います。延原先生の“指揮者コーナー”も好評でした。なんと、我が孫は一昨年続き、客席周囲の皆様の声援に後押しされて二年連続で舞台に立つことができ、大変喜んでいました。

昨年はコロナ禍が少し落ち着き、我々が合唱用マスクをしてコンサートに臨んだことが、まるで昔のこのように感じられます。コロナ禍においては、他の団体と比較しても練習中止が極めて少なく、練習に参加する団員も多かったので、コンサート中止はジョイ・コーラスの一回だけでした。これはコミュニティ協会平野区支部協議会のご協力、鹿岡先生と竹村先生の情熱、そして団員たちの合唱にかける愛情の賜物と考えております。本当に有難うございました。

世間一般では在宅勤務の増加や懇親の場が減少していましたが、最近では外国人観光客の戻りや、展覧会やコンサートが再び活気づいています。これは新しいふれあいの形が生まれつつある兆しであり、ひら混も新たな一歩を踏み出す絶好の機会と言えるでしょう。新しい団員が加わることで、一層の活気と創造性が生まれ、団全体が飛躍することを期待しています。現在の団員数は46名で、団員一人ひとりが新入団員を招くことで総勢92名の大所帯となることを目指しましょう。これは新しい仲間を迎え、団の魅力を広げる一環です。

令和6年も健康に気を付けて、一層のハーモニーを生み出せる年にしていきましょう。

## 鹿岡晃紀先生

皆様あけましておめでとうございます。昨年末のクリスマスコンサートお疲れさまでした！「主よ、人の望みの喜びよ」で有名なバッハの147番を全曲演奏できたこと、誇りに思います。2023年はちょうど初演から300年という記念すべき年に演奏できたことも良かったです。私としても2016年11月ぶりに147番のソロを歌い、当時は全然歌えなかったアリアをそれなりに歌えるまでになり成長を感じる日にもなりました。147番を歌い切った後の皆さんのあの晴れやかな顔を今でも思い出します。もう終わったんちゃうかと思うくらい。まだ第九あるでーと思いながら(笑)

第九もクリスマスキャロルも素晴らしかったです！やはり団員数の減少や加齢による声の衰えもありますがそれをカバーするレガート唱法やドイツ語の響きの進化が見られ、指導者冥利につきます。本当に素晴らしかったです！！

2023年は阪神タイガースが日本一になったり、デュオコンサートが大成功するなど最高の一年でしたが2024年はどんな一年になるでしょうか。今年は9月14日に平野にてデュオコンサートを開催することや一年かけて「土の歌」を仕上げるなど楽しみであり挑戦の一年になる予感です。健康に気をつけて今年も楽しく歌いましょう！弥栄！

## 竹村美和子先生

明けましておめでとうございます。昨年のクリスマスコンサートではお疲れ様でした。皆様の素晴らしい演奏に大変感動と勇気を頂きました。難しいバッハの曲に果敢に挑戦され、途中幾度も悲鳴？を上げながらも最後まで諦めずに取り組まれた皆様の努力、根性、熱意！まさにその集大成という演奏でしたね。私も皆様のようにもっともっと頑張らなくては！と大いに励まされました。今年は大曲「土の歌」に取り組みますが、またバッハとは違った色々な難しさがあります。これまで培われてきた経験と力で、精一杯、心をひとつに、素晴らしい演奏をお客様に届けられるよう頑張らしましょう！今年もどうぞ宜しくお願い申し上げます！

## 第23回平野区 クリスマスコンサート



バッハ／カンタータ第147番 全曲演奏

第23回平野区クリスマスコンサートは多くのお客様にお越しいただき成功裏に終えることができました。ご協力いただきました多くの関係者の皆様に深く感謝いたします。また、第九に賛助出演していただいた守口地区更生保護女性会コーラスの有志の方々、ありがとうございました。

カンタータ第1曲は最終レッスンまで鹿岡先生と竹村先生にご心配をおかけしましたが、熱心なご指導のおかげで歌いきることができました。ありがとうございました。カンタータ第147番を全曲演奏する合唱団は珍しいらしく、当団が全曲演奏できたことや第九の完成度が上がったことに関して、延原先生にもお褒めの言葉をいただき嬉しく思いました。クリスマスキャロルは4年ぶりにお客様と共に歌うことができ、コロナ禍を突き抜けた感が会場全体にひろがりました。

## お客様アンケートより抜粋（事務局坂野氏まとめ）

- ♪初めてコンサートを聴いたのですが、声の良さ、楽器の音を生で聞くことで、今までにない、とても良い気持ちを味わいました。指揮体験も非常に素晴らしい体験だと思い、次回は私も参加してみたいと思いました。
- ♪来られなかった3年間を振り返り、ここに今元気にコンサートを聞くことが出来た事に喜びを感じています。
- ♪平野区では楽器も揃えてきているようなので、市民楽団も参加してのコンサートを考える時期では？
- ♪合唱団の方々の歌声がすばらしく、日々の練習を頑張っておられるのだと感じました。来年も楽しみにしています。ありがとうございました。
- ♪平野区でプロのオーケストラを鑑賞でき大変感動しました！平野区の中学生も吹奏楽が盛んで、音楽人口が多い区だと思います。これからも素晴らしい企画をよろしくお願いします！
- ♪やっぱり第九はすごい！ソプラノのソリストさん最高に上手でした。ひら混さん良く頑張っておられました。

## 第11回 大阪市コミュニティ合唱祭

「化かされずに帰れるかな？」をテーマに昨年9月10日（日）に旭区民センター大ホールにて開催されました。中塚先生、高原様、廣部様、諸先生方、ご尽力いただきました実行委員会の皆様方、ありがとうございました。微に入り細に入る準備と進行には感動でした。



♪谷間のともしび ♪主よ、人の望みの喜びよ ♪大地讃頌

### （鹿岡・竹村両先生評）

合唱祭りハーサルのときから声が鳴り響き、気持ちよく歌われたことと思います。

普段の練習では響かないので、どうしても力を入れて歌ってしまいます。透き通った声で歌えるよう、普段から練習していけばもっと素晴らしいステージになると思います。

10回の練習で合同合唱の「混声合唱とピアノのための民話」という難曲を暗譜であれだけの演奏にもっていったのは素晴らしいです。アンコール曲のゴスペルハレルヤは、中塚ワールド全開の感動ものでした。

他団のステージをご覧になって学んだことを生かし、頑張っていきましょう。

合同合唱の最初の練習のときに、実行委員会の方から合唱の心得を話されました。ひら混のレッスンのときにも以下の心得は守っていききたいものです。

- ・先生が他のパートを指導中は、絶対に声を出さないで耳を傾ける。
- ・歌うときは足を組まない。先生に失礼です。
- ・歌が終わってもそのままの姿勢を保つ。演奏は続いておりまだ終わっていない。

## 田中めぐみ・鹿岡晃紀デュオコンサート Vol.2

昨年11月5日（日）守口市立図書館多目的ホールにて開催されました。田中先生ご指導「ドルチェ八尾」と鹿岡先生ご指導「守口地区更生保護女性会コーラス」「ひらの混声合唱団」とが一部前半で各演奏を、後半では合同合唱で嵐の♪ふるさと、「土の歌」より♪大地讃頌を演奏しました。二部では



ひら混 ♪主よ、人の望みの喜びよ

♪「いつの日か」より しゃぼん玉～月の沙漠～どんぐりころころ～赤とんぼ

先生お二人の素敵な歌声と楽しい会話で盛り上がり、阪神タイガースの「アレ」で盛り上がり、本当に楽しいコンサートでした。新しく美しいホールで、歌声がきれいに響きました。鹿岡先生は、ご自身が指導されている団の演奏を客席で聴くということがあまりないので胸がいっぱいになられたそうです。また、夫婦で指導している団の合同合唱をするのが夢で、皆さんの協力のおかげで夢が叶いましたと大変喜んでおられました。

**懇親会：**心待ちにしていた懇親会を1月10日（水）に平野区民ホールにて開催しました。♪早春賦の合唱で始まり、館団長、区コミ協豊田会長、区民ホール瀬崎館長のご挨拶後には、大森顧問の乾杯で和やかな談笑の時間でした。その後いよいよお楽しみの余興です。①砂川さんのヴァイオリンとビオラの音色の違いの話。♪アヴェ・ヴェルム・コルプス ♪愛の挨拶 ♪ラ・クンパルシーターの演奏。②全員参加による、トーンチャイム・ツリーチャイム・ウインドーチャイムの楽器を使った♪一緒にならそうよ ♪きらきら星の演奏（指揮指導：藤本さん、ピアノ伴奏：守口の静永さん）。柔らかく響く美しい音色は心身が浄化されるようでとても良かったです。きらきら星では希衣ちゃんの歌も飛び入り参加で拍手喝采でした。③竹村先生のピアノ伴奏による鹿岡先生の♪昂の熱唱。時間があっという間に過ぎ、いつもお世話になっている先生方に花束を贈呈し閉会となりました。進行役の坂野さん、買い物と会場設営に携わってくださった委員の皆様、ありがとうございました。



## ちょっとお勉強

今年のコンサートでは「土の歌」を数楽章ずつ歌い、クリスマスコンサートで全曲演奏できるように頑張っていきたいと思います。

第7楽章の大地讃頌はこれまでも歌ってきましたが歌詞の意味を深く知るためには、鹿岡先生が仰っておられたように、「土の歌」全体の構成を知る必要があります。第1～6楽章の意味を考えることで初めて大地讃頌の中の「平和な大地よ」「たたえよ土を」などの歌詞の意味がわかるようになるそうです。スケールの大きな曲のしめくくりとして、この歌詞をとらえると見え方が違ってきます。

「土の歌」は全7楽章で構成され、それぞれの楽章には次のような意味が込められています。

- 第1楽章：「農夫と土」 \_ 自然の恵みの神秘、土への感謝
- 第2楽章：「祖国の土」 \_ 人は皆土に生まれ、土に還っていく
- 第3楽章：「死の灰」 \_ 原爆について取り上げられ、人間と科学の汚さ
- 第4楽章：「もぐらもち」 \_ モグラに例えた人間への皮肉
- 第5楽章：「天地の怒り」 \_ 天災と人間悪について
- 第6楽章：「地上の祈り」 \_ 大地への想いと反戦の祈り
- 第7楽章：「大地讃頌」 \_ 本作品を締めくくる大地への限りのない讃歌



自然や土への感謝から始まり、大木惇夫の故郷を襲った原爆や天災、人間悪に触れた上で、大地への感謝と反戦の祈りへと昇華されていきます。

**編集後記：**団だより作成にご協力いただいた皆様ありがとうございました。健康に気をつけて今年も頑張って歌っていきましょう。

（広報：萩原 鳥居）